

第6回 児童館・児童クラブのあり方検討部会合同会議 会議録

第6回 仙台市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 児童館・児童クラブのあり方検討部会 会議録

第6回 仙台市子ども・子育て会議 児童館・児童クラブのあり方検討部会 会議録

1 日時 令和5年10月27日（金）15：00～17：00

2 会場 仙台市役所上杉分庁舎2階 第三会議室

3 合同会議委員出席数

委員定数10名（出席委員8名）

- ・出席委員 植木田潤議長、飯島典子副議長、佐藤富美子委員、佐藤真奈委員、丹野由紀委員、橋本潤子委員、平山乾悦委員、三浦正幸委員
- ・欠席委員 川村美智委員、佐藤哲也委員

4 会議録署名委員 植木田潤議長、飯島典子副議長、佐藤富美子委員

5 議事

（1）報告事項

①市内児童館における盗撮事案の発生及び再発防止について

（2）協議事項

①児童館・児童クラブの安全管理について

②児童館・児童クラブのあり方検討報告書中間素案について

議事要旨

1 開会

2 議長挨拶

3 議事

（1）報告事項

①市内児童館における盗撮事案の発生及び再発防止について

資料1に基づき、児童クラブ事業推進課長が説明。

（質疑応答、意見交換）

なし

(2) 協議事項

①児童館・児童クラブの安全管理について

資料2、参考資料1、2に基づき、児童クラブ事業推進課長が説明。

(質疑応答、意見交換)

橋本委員 安全管理は児童館運営の基礎であり、非常に重要なものである。その前提となる部分に関して、一つの場所に児童が多すぎること自体とてもリスクが高いと思っている。1人でも多くの希望者を受け入れるためかと思うが、一部の適正規模の児童館を除くとかなり無理した状態で児童が過ごしており、コロナ禍でもそうであったが、職員が神経をすり減らしながら対応している。そうすると職員も疲弊し、児童の遊びや行動が制限されることとなり、児童にとってあまりよい環境とは言えない。

また、私が関わりのある児童館では、コミュニティ・センターの2階の広間をサテライト室として使用しているが、コミュニティ・センターには常駐の職員がおらず、地域の住民が使いたいときに来て使う形になっている。1階に人がいないというのは、児童が気兼ねなく動け、非常に広々としたよい環境であるが、2階に行く階段が一つしかなく、もし悪意を持った者が入ってきたら逃げ場がない。できるだけ対応や訓練はしなければならないと思うが、万一何かあったときには大惨事になりかねないという不安を持っている。消防計画上舞台袖から1階の天井部分に出られるようにはなっているが、外から鍵がかからず、全員がそこに逃げられるという保証もない。出入口がたくさんある平屋の児童館であれば比較的リスクは少ないと思うが、このサテライト室については懸念がある。

児童クラブ事業推進課長 資料には記載していないが、安全管理に関して、子どもの数が多い中面積が狭いということは大きな課題であると認識している。狭いとケガの危険が増し、大勢の児童がいると職員の目が届きにくくなるという面がある。狭さに関しては、安全管理の観点を含め、児童クラブ専用区画面積の拡大として改善を図っていく必要があるものと捉えている。

次に、サテライト室について、現在3分の2が小学校内に設置されており、そのほか民間賃貸物件やコミュニティ・センターを借りている場合があるが、いずれの場合でも防犯面の課題がある。児童館本館についても、保育所は入口の施錠を行い、インターフォンで対応しているが、児童館は自由来館という施設の性質上、自由に出入りが可能となっている。防犯については、それぞれの施設の特徴に応じて、警察や学校と連携しながら、個別に計画を立てていく必要があると考えている。橋本委員が挙げた施設は指摘のとおり課題があるので、コミュニティ・センターを管轄する町内会や警察等とも調整の上、退避場所、経路の設定など個別に相談しながら対応してまいりたい。どの施設でもそうであるが、悪意を持った者の侵入に対しては、様々な事態を想定して、今後マニュアル等を作成していかなければならないと考えている。

植木田議長 各児童館の構造や体制等を踏まえながら、起こり得る事態を想定し、様々なマニュアルを作成したり、訓練を実施したりする必要がある。一方で、制限を強めることで児童の自由が制限されてしまうのは残念であるため、難しい部分ではあるがバランスを考えなければならない。

丹野委員 倫理・サービスチェックシートを見ると、職員の姿勢の項目が不十分である職員はストレスを抱えた職員が多いのではないかと思った。そのため、このチェックシートを活用して職員のメンタルケアの充実を図っていったらどうか。

児童クラブ事業推進課長 このチェックシートを活用して職員のケアにつなげることは重要だと思うので、館長等とのコミュニケーションを図りながら、そのような観点でも実施するよう検討してまいりたい。

飯島副議長 このチェックシートは市が独自に作成したということだが、参考にしたものなどはあるのか。

児童クラブ事業推進課長 全国保育士会の保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリストや、本市保育所における人権擁護等に関するチェックリスト、児童相談所の児童対応に関する倫理・サービスチェックシート等を参考に、主に小学生を対象とすることも踏まえた上で、児童館・児童クラブ用に作成している。

飯島副議長 児童館用というのはこれまでなかったということか。

児童クラブ事業推進課長 そうである。

佐藤富美子委員 このチェックシートに類似したチェックシートが各管理運営団体にもあり、それを用いてヒヤリハットやコンプライアンス意識の向上を図っている。多くの管理運営団体において、研修などで使用しているものと思う。

植木田議長 負担感が強すぎると形骸化してしまうが、かといって自分を振り返る機会を年に何度か持たないと流されてしまう。罰を与えるために使うというよりは、お互い忙しさの中で流されてしまう部分を改めて確認をするために使うものかなと思う。

平山委員 今まで本部の職員が各児童館を回り、ハンディのある児童と職員がどう関わっているかや、集団の中にその児童が入る段取りの手伝い、プログラムの提供を行っていた。今後は職員が適切に児童と向き合っているかどうかを確認するための巡回指導を年3回程度実施しなくてはならないと感じた。これまでハンディを持った児童との関わりなどを中心としていたものを、もう一回り広げなくてはならない。このことは先日の仙台市内児童館連絡協議会でも話題となり、どの管理運営団体でも同じようなこと考えているようだった。宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会と仙台市内児童館連絡協議会が合同でコンプライアンスに関する研修会を開催することになっているため、その内容も踏まえ、各団体で具体的な部分を検討することになると思う。

②児童館・児童クラブのあり方検討報告書中間素案について

資料 3-1、3-2 に基づき、児童クラブ事業推進課長が説明。

橋本委員 29 ページの長期休業期間中の注文弁当配送とおやつ注文・業者配送について、児童館の状況は規模や立地等により様々である。職員は注文弁当を受け取るだけということだが、受け取って配るだけでもそれなりの負担になる。とりわけ、大規模館は長期休業中とても大変であり、職員に負担がかかるものと思う。職員を増やす手立てがなければよいが、今は予算があってもなかなか人が集まらない状況のため、本文中に「課題を把握するとともに」とあるが、「各児童館の状況にも配慮しながら」などの文言もあるとよいと考える。

児童クラブ事業推進課長 注文弁当を配送する事業者が児童一人ひとりに配る仕組みにすると、事業者が2ヶ所程度しか回れなくなってしまう。そのため、児童館側で預かって、配る形が通常となる。一方で、放課後児童支援員の業務負担も考えなければならぬため、「各児童館の状況も踏まえながら」という趣旨の文言を付け加えたい。また、大変忙しい夏休み等の実施であることや、人の確保が難しいということも踏まえ、弁当やおやつに関する業務を、放課後児童支援員がしなければならない業務ではない、いわゆる周辺業務とし、資格のない方が行うことができるような配備などの検討を今後のモデル事業を通じて行ってまいりたい。

飯島副議長 児童クラブサテライト室に関するワーキンググループにファシリテーターとして参加し、好事例である錦ヶ丘児童館を見学した。その中でよかった点に、領域の意味付け、流動性のある活動が挙げられる。

錦ヶ丘児童館では美術的な活動であったが、児童がやってみたい、作ってみたいと思ったら、それをすぐに作ることができるというところがとてもよいと感じた。ワーキンググループにおいても、職員の一番の希望は、児童からこうしたいという要望があったときに、それを叶えてあげられる児童館でありたいということだった。中間素案では、その費用がどの項目に当てはまるのかがやや分かりづらい。遊具・備品・図書の充実もどちらかというとなら固定費的なもので少し異なるイメージであり、行事イベントの充実も日々の活動の豊かさというよりは、近所の子たちも来られるようなもののイメージになるかと思った。もう少し現場の職員が思い描く、児童が明日も行きたいと思うような児童館を、空間としてどのように作っていくかという部分を、文章に反映していただければと思う。

それに係る予算は、主に基本的な運営経費の中の消耗品となるだろう。ワーキンググループの議論の中でも、児童館をよりよくするための物品の充実について、もっと児童のために使えるものがほしいという意見があった。ワーキンググループのとりまとめと

して、そのような方向で提案するという事となったが、中間素案の関係構造の中で分かりにくかったため、説明いただきたい。

児童クラブ事業推進課長 児童がこうしたいと言ったときに叶えてあげられる児童館は、「こどもまんなか」の趣旨にも沿っており、目指すべきものであると感じた。意見のあったサテライト室の備品等に関しては、遊具・備品・図書の充実の中で、児童アンケートの結果などを踏まえて対応してまいりたいと考えており、具体的には指定管理料の増額になるかと思う。また、ワーキンググループの部分に記載している衝立やスペースづくりなどでも費用が発生すると考えている。今後の予算の確保については現時点でお約束することは難しいが、ご意見のあった児童館の目指すべき姿、方向性については記載していきたい。

三浦委員 30 ページにある図表 27、入退館管理、保護者連絡用アプリケーション等の政令指定都市の導入状況について、仙台市は、児童クラブ登録者システムは市として導入しており、政令指定都市 20 都市のうち市として導入しているとしている 12 都市に含まれる、また、入退館管理システムは一部の運営団体が独自で導入している場合があり、保護者への連絡等を行う保護者連絡アプリは、運営団体独自のものを含ま導入の実績が全くないということでしょうか。

児童クラブ事業推進課長 そうである。

三浦委員 保育所では ICT に関する補助金が整備されているが、それでもまだ導入は 100% ではなく、たくさんあるアプリの中からよいものを選び、少しずつ浸透しているという状況である。一方、仙台市の児童クラブでは、保護者との連絡アプリを使っているところがひとつもないというのは意外であった。

児童クラブ事業推進課長 導入に関しては保育所が先行しており、本市においても保育所では今年度から導入したところである。

保育所と児童クラブでは必要となる機能が異なり、保育所であれば毎日通う前提であるところ、児童クラブでは利用の有無、登館、退館時間、一人帰りなどの帰宅方法など、様々な選択肢があり日々のスケジュール管理が保育所よりも複雑になる。入退館管理システムではそのようなスケジュールの管理や入退館の管理ができるようになり、保護者連絡アプリでは急な欠席や遅刻などの連絡がアプリ上で可能となる。今年度導入のための予算を確保しており、来年度当初からの導入に向けて、現在進めているところである。

三浦委員 全国的にみても決して遅れている状況になく、私が運営している保育園でもまだ導入していない。このようなアプリケーションが出てから 5 年程度が経過しており、毎年フェアなどで目にするが、個人的な見解として、これであれば機能面で完璧という製品がなかなかない。今後よりよい製品が出てくるかもしれないし、市が導入を考えている製品も機能面で不足する場面が出てくるかもしれない。児童クラブにおけるアプリのシェアは知らないが、平山委員はご存じか。

平山委員 仙台市のルールとして、保護者のメールアドレスなどの個人情報を第三者に預けてはいけないこととなっている。そのため、児童館から保護者に直接連絡はできるが、第三者を通じて連絡してもらうことはできない。そのため、どの児童館もメール一斉配信システムを入れていないと思う。私の運営する児童館では、メールソフトにおよそ 20 人ずつ登録したグループを 5、6 個用意し、メールを送信する作業を何度か行い送信している。

三浦委員の指摘のとおり、アプリについては、製品ごとに一長一短があり、決め手に欠く状況である。

三浦委員 デジタル庁など国が主導で標準的なものを導入してくれたらとも思う。

植木田議長 システムやアプリの導入は職員の負担軽減につながる重要なものであり、導入によりかえって手間が増えると本末転倒である。

宮野次長 職員、保護者双方の負担軽減が図られるよう検討してまいりたい。

佐藤富美子委員 前回までの議論の様々な要望が取り入れられており、今後の方針としてとてもよいと私は評価している。

エアコン設置について、令和 8 年度の全館設置を目指すことは分かったが、遊戯室の面積比率が高く、特に緊急性の高い館というのは具体的にどういうことか。

児童クラブ事業推進課長 今年 1 か所、遠見塚児童館でリース機器を導入している。ここは遊戯室の面積が広く、図書室、集会室、児童クラブ室の面積がとても狭い児童館であり、約 75%が遊戯室となっている。そうすると夏の居場所がない状況になってしまうため、急遽リース機器を導入した。このように遊戯室が 50%を超える児童館がほかにもあるため、そういった児童館で来年度までにリース機器を導入してまいりたいと考えている。

丹野委員 14 ページの遊具・備品・図書の充実に関して、市は各児童館に予算として図書費を割り当てているのか。

児童クラブ事業推進課長 人件費、物件費、管理費等を積算し、指定管理料としてまとめて支払っており、それをどのように使うかは各団体に決定している。

丹野委員 そうなると他に購入すべきものがあつた場合、図書の購入が遅くなるということもあるだろう。私が関わっている児童館は古い本がずっと置いてあり、気になっていた。図書を購入すると言ってもおそらく年に数冊程度かと思うので、提案だが、フードバンクのように図書バンクみたいな形で、児童館で読みつくして古くなったがまだ使える本を、別の児童館が引き取るような仕組みができないだろうか。

児童クラブ事業推進課長 図書の予算に関しては、市で一定程度の金額を積算しているものの、どの程度が図書購入に充てられているか把握していない部分がある。今後遊具・備品・図書の充実として加算金などを導入した場合は、どんな物品を購入したか、どの

程度購入したかなどの確認は必要であると考えている。

提案いただいた図書バンクについては、この場で明確な回答は難しいが、児童館に通っていると読んだことのあるものばかりになってしまうということは課題としてあるかと思うので、今後管理運営団体の意見も聞きながら考えてまいりたい。

植木田議長 図書の選定は児童館ごとに任されているのか。

児童クラブ事業推進課長 そうである。

植木田議長 大人が読んでもらいたいものと、児童が読みたいものとのずれはあるだろうが、一方で児童のニーズにばかり沿っていると漫画に偏ってしまうかもしれない。少し先を見据えて、身になるようなものを置くことができればと思う。現在は本を読む習慣自体がどうかという部分もあるが、学校の図書室で人気の本など、バランスを踏まえて考えていけるとより充実するだろう。もっと先を言えば今後電子書籍が出てくるだろうから、形のあるものだけではなく、クロームブックなどで読むような本も必要になってくるかもしれない。そのため、柔軟な運用ができるようなお金の取り方、使い方が図られるとよい。

佐藤真奈委員 これまで議論した内容がとてもよくまとめられているなど感じた。

システムやアプリの導入、児童の安全管理に関して、先生の負担が大きいという状況はあるかと思うが、子どもを預ける立場からすると、登園している子どもを保育所が把握できていなかったという事態がどうして起きてしまうのかと思う。今後も職員が直接児童を確認する必要はあるが、システムやアプリを導入することによって、ぱっと児童がいるかどうか分かるようにするなどしながら、児童の安全を守っていければと思う。

また、職員のスキル、人材確保に関して、預ける立場としては、職員には倫理・サービスセルフチェックに記載されている内容が備わっているものとして、子どもを預けているが、支援員も人であり、定期的に確認することも大事だと思う。

児童館で働く職員が足りないなどとても難しい状況であると思うが、子どもたちを育てていく上でとても重要なことなので、報告書の形でまとめてもらえて安心であり、今後児童館が変わっていく期待が持てた。

植木田議長 できるところからにはなると思うが、私たちの思いとして様々な柱が入っているので、ぜひ実現に向けて進めていただきたい。

職員体制、人材育成の確保が質の高い保育には欠かせない。要支援児を含め様々な子どもたちがぶつかり合いながら育ち合うためには、空間の余裕もそうだが、周りで受けとめる大人の余裕がどうしても必要であるので、「人」というものを大事にしていけるような報告書になっていくとよいと思っている。

他に意見はよろしいか。この場で出し切れなかった中間素案に対する意見については、後日事務局より意見票を送付し、とりまとめることとしている。あとでお気づきの点等があったら、そちらに記載していただけたらと思う。本日も円滑な進行にご協力いただ

き感謝する。それでは進行を事務局にお返しする。

4 閉会

推進係長 議長からあったとおり、後日中間素案に対する意見票を送付するので、本日出しただくことのできなかつた点やお気づきの点等があれば、そちらに記入の上事務局へ提出いただきたい。

次回の合同会議の日程については、11月下旬以降で調整したい。なお、議題は中間案とする予定である。それでは、以上をもって本日の会議を終了させていただく。

以上